

平成 27 年 11 月 7 日

SAJ 伝達講習会

## FIS 医事委員会：ワクシングガイドライン

### ワックスルーム空気汚染：健康被害の予防

ワックスルームの空気汚染は、長い間、問題として認識されてきました。アイロンから立ち上る煙が、最も根本的で顕著な要因ですが、低温でのワクシング作業においても、問題は生じると考えられます。最新タイプのワックスや回転式によるスキーソールの研磨は、新たな科学的汚染を引き起こします。

一般的には慢性疾患ですが、気道、皮膚、そして目に、急性の疾患も引き起こすことが考えられます。さらに、喘息、アレルギー反応、肺拡散能低下、その他深刻な被害を与える恐れがあります。

この分野の科学的研究は、現在、スウェーデンとノルウェーにおいて進められています。最終結果には更に時間が必要です。しかしながら、この被害を避けるためにも、適切な方法が速やかにとられなければなりません。

競技会の主催者は、ワクシング作業に従事する者に、適切な環境を用意しなければなりません。この問題は、スキーヤーとサービスマンに同様に起きますし、また、自宅でのワクシングの作業においても、同様です。

安全のためのガイドラインを下記に記します。

FIS 医事委員会は、各国スキー連盟がこれを受け入れ、各国内で通知することを求めます。

### 安全のためのガイドライン

- 全てのワックスルームスタッフは、認可を受けたフィルター付きの防護マスクを着用すべきである。
- マスクは、取り外さずとも周囲と会話が可能なものであるべきである。
- 室内の煙や空気汚染を最小値にするため、ワックスアイロンや回転式研磨機の近くに、吸引による換気システムを設置すべきである。
- ワックスルームは清潔にし、日常的に完全に換気されるべきである。
- 煙と空気汚染にさらされる、絶対的な時間を短くしなければならない。
- 防護マスクを着用しない場合の、ワックスルームへの入室は制限されなければならない。
- 防護マスクを着用しないで入室した場合の健康被害等について、記載した書面を掲示すべきである。